

# きょうされん第44次国会請願の報告

組織・運動委員会 2021.6.22

人に会うこと・人と話すことが制約される中でも、署名・募金の協力の願いを通じて、全国各地に心温まるたくさんのエピソードがあったと思います。それらを積み重ね、6月22日14時現在の到達（確定は6月末）は以下のようになっています。

**署名：78万8,268筆 / 募金：30,731,541円**

**（第43次署名：86万7,199筆 / 募金：26,425,365円）**

昨年の43次では運動の後半（4～6月）からコロナウイルスの影響が本格化してきましたが、44次はスタートから大きく影響し、団体依頼や会議開催など人が集まる場での署名協力の願いが難しい状況にありました。愛知のリコール署名の影響もあったのではないかと思います。

一方、募金の到達が伸びた背景には、クラウドファンディングなど寄付文化が醸成されてきたことや、定額給付金という臨時的な収入があったことも影響しているのではと考えています。

各地での奮闘、本当にお疲れ様でした。

## ◆第44次国会請願署名の紹介議員

- ・今度も400人以上で国会議員会館に集まって紹介議員のお願いをすることはできませんでしたが、できるだけ支部からの紹介議員の依頼と署名束の届けを提起してとりくみました。
- ・支部からは、「請願署名を続けてきたことで、地元選出議員とのパイプは確実に太くなってきている。与党議員が役職についているから紹介議員になれないと、今回はじめてていねいなファクスを送ってきた」などの声も聞かれました。
- ・紹介議員は、248人（第43次：248人）でした。

政党	国会議員	紹介議員	紹介議員比率	政党	国会議員	紹介議員	紹介議員比率
自由民主党	391	67	17%	日本共産党	25	25	100%
公明党	57	14	25%	社民党	2	2	100%
立憲民主党	157	116	74%	れいわ新選組	2	2	100%
日本維新の会	27	3	11%	その他（無所属等）	23	9	39%
国民民主党	25	10	40%	合計	709	248	35%

## ◆政党懇談会と厚労省懇談

今次ははじめて、オンラインでの政党懇談会や厚労省懇談にとりくみました。6政党（公明党・立憲民主党・共産党・れいわ新選組・立憲民主党・社民党／開催順）28人の国会議員と懇談することができました。詳しくは、きょうされんHPや月刊TOM07月号をご覧ください。

## ◆第44次国会請願署名の審査結果

衆議院では請願担当者会議において、不採択となりました。与党から、65歳問題については介護保険優先が施策の基本だということで反対意見が出されたそうです。

参議院では、国会最終日まで「国家安全保障上重要な土地等に係る取引等の規制等に関する法律」に関する与野党の攻防が続いたため理事懇談会が開催されないまま、理事会に諮られたとのことです。情報によれば、①工賃補償はできない、②優生保護法の一時的支給法は作ったばかりなので見直しは不可、③65歳問題も認められないとの意見が出たことから全会一致がかなわず、不採択となりました。

衆議院・参議院ともに不採択という結果でしたが、優生保護法の被害者の立場、障害のある人の立場に立った要望をひっこめるわけにはいかないと考えています。

## 第 44 次国会請願総括

組織・運動委員会(担当:佐藤)

## I. 署名・募金の到達 (6月22日現在・確定は6月末)

■署名: 788,268 筆(目標対比 57%) / 43 次到達: 867,199 筆

■募金: 30,789,474 円(目標対比 79%) / 43 次到達: 26,425,365 円

## &lt;署名&gt;

○署名は、コロナ危機の下で人に会う・人と話すことが制限される中で、昨年度到達を超えることができなかった。

○昨年の 43 次では運動の後半(4~6月)からコロナウイルスの影響が本格化してきたが、44 次はスタートから大きく影響し、団体依頼や会議開催など人が集まる場での署名協力のお願いが難しい状況にあった。

○愛知リコール署名の影響もあるのではないと思われる。

○これまで署名用紙を渡して例えば 200 筆を集めてきてくれていた人が、身内だけの署名になるなど数を集められなかった。支部から依頼した人の数は変わらないが、その先の広がり難しかった。

○仲間と一緒に訪問などできなかった。

○愛媛支部は、全会員から署名をもらえた。到達は下がっているがすごいこと。

○三重支部は、郵送で署名をたくさん依頼した。

○コロナの感染者が思ったよりも増えて、団体依頼できなかったところもあった。

## &lt;募金&gt;

○新型コロナウイルス感染拡大の影響で、全国的にがんばる日はほぼ実施できなかった中、募金については第 43 次到達を大きく超えて、新型コロナウイルスの影響のなかった第 42 次到達(31,851,535 円)に迫る到達になっている。

○募金の到達が伸びた背景には、クラウドファンディングなど寄付文化が醸成されてきたことや、定額給付金という臨時的な収入があったことも影響しているのではないかと。

○生協を通じて依頼した募金が伸びた。企業・団体からの募金も伸びた。

○募金を振り込みでお願いしたら、個人や企業が募金してくれた。これまで事業所と付き合いがあったことが大きい。

○これまで以上の募金をもらうことができた。応援したいという思いからか。

## &lt;その他&gt;

○11月に動きを作ることができていれば、到達ももう少し伸びたのではないかと。動けるときに動くことが大切。

## II. 紹介議員の依頼・署名束の届け

○紹介議員の依頼・署名束の届けは、できるだけ支部からと提起してとりくんだ。「両方は難しくても依頼だけはできないか」や、「43 次紹介議員になってくれた議員だけは支部から紹介議員の依頼ができないか」など支部と相談してとりくんだ。

○福島支部・神奈川支部には、署名束不足のため全国からヤマト労組分の署名束を支部に送った。

○北海道支部・山形支部・東京支部・長野支部・高知支部などは、署名束不足のため一部の議員に署

名束を全国から直接議員に送った。

○長野支部の公明党の議員からは、住所等がきちんと記載している署名束を届けてくれとリクエストがあり、厳選して全国から議員に直接送った。

○新潟支部・長崎支部は、支部から直接届けたい議員には支部から、他は全国からなど分担した。

○福岡支部は、共産党の議員は紹介議員になってくれるだろうから全国から送ってほしいとのことで、全国から署名束を送った。

○支部の希望や事情をくみとりながら、全国が後方支援に回ることができたのではないか。

○兵庫支部からは、全体のスケジュールがわかりにくかったという声が届いている。

○支部が議員に連絡をする中で、東京の議員会館でなら会うことができると言われた議員が7人(1人は紹介議員×で懇談のみ)いたため、全国事務局で訪問した。

※第43-44次の実績:紹介議員依頼・署名束届け参照

### Ⅲ. 紹介議員

○248人(紹介議員の承諾の返事がなかったが、紹介議員になってくれている5人を含む)

○248人/709人=約35% 3人に1人以上が紹介議員になってくれている。

○第43回は、248人

○他に、紹介議員の承諾の返事があり署名束を発送したが、紹介議員にならなかった議員が14人。

※承諾○紹介×と承諾×紹介○の議員一覧参照

政党	国会議員	紹介議員	紹介議員の比率	政党	国会議員	紹介議員	紹介議員の比率
自民党	391	67	17%	日本共産党	25	25	100%
公明党	57	14	25%	社民党	2	2	100%
立憲民主党	157	116	74%	れいわ新選組	2	2	100%
日本維新の会	27	3	11%	その他(無所属等)	23	9	39%
国民民主党	25	10	40%	合計	709	248	35%

### Ⅲ. 政党懇談会・厚労省懇談

■実施日:5月27日(木)・28日(金)/6月7日(月)

■政党(議員数):6政党28人の国会議員

公明党(2)/国民民主党(9)/日本共産党(5)/れいわ新選組(2)/立憲民主党(9)/社会民主党(1)

■きょうされん参加者:16支部のべ63人

○はじめてのオンラインでの実施。国会議員に直接要望を伝えられる場であり、参加者にとっては直接きょうされんを実感できる場でもあった。

○できるだけ多くの人に参加できるように調整できるとよい。

### Ⅳ. 請願審査結果

■衆議院(請願46本中採択は9本 19.5%)

○衆議院では請願担当者会議において、不採択となった。与党から、65歳問題については介護保険優先が施策の基本だということで反対意見が出されたとのこと。

- 請願担当者会議（参議院の理事会と同じ位置づけ：請願の件数が多い衆議院厚労委員会特有の制度）で審査されるが、この請願担当者会議の出席は理事会メンバー（理事とオブザーバー）に限定されており、各会派1名ずつ。理事は自民・立憲・公明で、共産・維新・国民はオブザーバー。
- 請願代表者会議の全体の審査時間は、35分程度。個々の請願ごとに審査していくという形式ではなく、まず与党から採択したい請願が一括して示されるという形をとるので、個々の請願ごとの時間は記録されないが、出席していた宮本議員や衆議院調査室の話によると、野党側からはぜひ採択すべきであるとの意見が出たが、与党から保留にすべきとの意見が出た。議論自体は行われた、とのこと。

■参議院（請願49本中採択は6本 12.2%）

- 参議院では、国会最終日まで「国家安全保障上重要な土地等に係る取引等の規制等に関する法律」に関する与野党の攻防が続いたため理事懇談会が開催されないまま、理事会に諮られたとのこと①工賃補償はできない、②優生保護法の一時金支給法は作ったばかりなので見直しは不可、③65歳問題も認められないとの意見が出たことから全会一致がかなわず、不採択となる。
- 全会一致じゃないと理事会にはかけらず、理事会自体は10分程度とのこと。

## V. 署名の到達と採択された署名の筆数

- 衆議院で提出された署名は93件426,591筆、参議院では167件342,365筆の合計768,956筆。6月22日時点の到達（788,268筆）と比較すると19,312筆の誤差がある。
- 紹介議員の承諾をしたが紹介議員にならなかった議員が14人いるので、提出されなかった署名があると思われる。
- 東京支部からは、2回にわけて渡したが1回分しか提出しなかった議員がいると連絡があり、全国事務局に送り返してもらうことにしている。
- 京都の署名を提出した議員秘書から、999筆のうち不備があり250筆分は提出できなかったという連絡が入った。

## VI. その他

- 紹介議員の依頼や署名束の届けをできるだけ支部からと提起したことで、支部が直接地元国会議員とつながれるきっかけを作れたのではないか。
- 紹介議員のいない支部（青森・島根）のモチベーションを今後どうするか。
- 国会請願の時だけではなく、日常的に国会議員とつながれるようになるよう働きかけられるとよい（障害者週間の面談申込など）。
- 愛知リコール署名の件もあるので、署名の数だけでなく、ていねいに署名を集めていくことを改めて確認したい。
- 事務局としては、支部なし県の会員や鳥取支部の会員への電話かけを行なうことができた。署名ゼロ会員を1つでも減らしたい。